

県民で生き方と願うこと

古堅中学校三年二組 内間 穂加

七、十三年前の終戦日。この日が来るのを

れだけの人が待ち願っていたろう。四

月一日から終戦日までどんな想いで長い月

日も過ぎしたのだろう。私が今、七、十三年前

に戻ったならこんなにも長い月日を、耐え続

け生き残れていたのだろうか。あなただけ毎

年必ずつくる六月二十三日の十二時、目をうぶ

て心の中で何を伝えていきますか。平和で

すよ。や、安らげに、おねむり、下さ、い、な、ど、

優しい言葉を伝えるでしょう。

私は、毎日心がけていることがあります。

それは主に、思いやり、やさしさ、そして、

「感謝」の三つです。なぜだろう、思いやり一つ

で、戦争もなくなると思いうからず。思いやり

りを一人一つでも、もっていただければ、人が笑

顔で毎日をおくれます。戦争が激し、た時

思、いやりなどがあったので、し、う、か、人、を、殺

し、あ、い、関、係、の、な、り、人、ま、で、ま、き、こ、ま、れ、夢、と

希望であふれる幼い子まで殺され、ケビナリ
 がマでは子どもが口から「殺して」と言う
 言葉がアアいた七十三年前。戦争が始まっ
 たら思いやりがなくなつたのでほなく始ま
 る前から少人数の思いやりのない人達がいた
 のではないかなと思ひます。なので私の思ひ
 やりというのはい、自分がやられて嫌な事は
 相手にほしはいいと、うごとどと思ひます。
 次に、アアアアアアです。人は生まれながら
 らにもつているものがアアアアアアと思ひま

す。そのアアアアアアが心のひろさで決ま
 ます。心のひろい人はアアアアアアアアア
 心がせまい人はアアアアアアアアアアアア
 は、沖縄戦でアアアアアア軍や日本軍はやさし
 いといえたのでアアアアアアアアアアアアア
 救、アアアアアアアアアアアアアアアアアア
 し、うか。私は、人の生死を分ける嘘をつく
 日本軍に比べればアアアアアアアアアアアアア
 をアアアアアアアアアアアアアアアアアアア
 し、いと戦争体験者の話を聴きたびに思ひます

だから、嘘をつかばいのは当たり前前の事ですが、嘘つかばい事誰かが怖がついてる時、苦しい時、自然に手をさしだせるやさいさを皆がもてる戦争は起こらばいいと思ひます、さらに、感謝も絶対に忘れてはいけな言葉であり、気持ちだと思ひます。あの七三年前の約ニヶ月を必死に存つて生き残つてくれた祖母や祖父がいるから今の私たちが半世に生きています。自分が生まれ生きてくけでも奇跡といえるのに、生き残つてきてく

れた方は本当に有難く、奇跡です。だから、病気なく生きている今に常に感謝です。又蛇口をひねれば水がでて、いつでも当たり前のように、お家に帰れて、玄関を開けて、たぐいませ、と言うとおかえり、と笑顔がかえつてくること、朝食も、昼食も、夜食も、おいしい温かい飯が食べること、本当に感謝です。

最後に、もしも沖繩戦が有りれば、私たちの同級生、そして沖繩の人口は今以上に多かっただんばと考えると、あの戦争の怖いや憎たらしさがでてきます。そして、戦争で生き残ってくれたのに、自分では後悔してゐる戦争体験者も多々います。又、あの日がよみがえると言つて戦争の話には口を開かない体験者だつています。今の私たちに本当に出来る事とは、なんだろうか。今の沖繩は辺野古基地等の問題をかかえる中で、二度とくり返さな

いように、戦争の苦しみを語り、くれた方ががいます。その語り、てくれた言葉一つ、一つを大切に、戦争がいけな事は誰でも分かるので、何故いけないかを改めてもう一度考え直し、終戦日を通して、沖繩県民の心を一つに、沖繩戦で亡なられた方に、御冥福と平和を誓い、亡なられた方と一緒に、世界平和を願つていける。六月二十三日、十二時の黙とうにいたします。